

## 黙示録 17 章 6 節-15 節 スタディーガイド

### ★ 黙示録 17 章 6 節-7 節

そして、私はこの女が、聖徒たちの血とイエスの証人たちの血に酔っているのを見た。私はこの女を見たとき、非常に驚いた。すると、御使いは私にこう言った。「なぜ驚くのですか。私は、あなたに、この女の秘義と、この女を乗せた、七つの頭と十本の角とを持つ獣の秘義とを話してあげましょう。」

6 節「私はこの女が、聖徒たちの血とイエスの証人たちの血に酔っているのを見た。私はこの女を見たとき、非常に驚いた。」

神様に仕える人々を、数え切れないほど殉教させて、その血に酔っています。

7 節「御使いは私にこう言った。『なぜ驚くのですか。私は、あなたに、この女の秘義と、この女を乗せた、七つの頭と十本の角とを持つ獣の秘義とを話してあげましょう。』」

世界を支配しているこの女と獣の反キリストの秘儀が、御使いによって知らされています。

17 章 18 節「あなたが見たあの女は、地上の王たちを支配する大きな都のことです。」

この女が異端宗教にかかわっている、バビロンという大きな都です。

### ★ 黙示録 17 章 8 節

あなたの見た獣は、昔いたが、今はいません。しかし、やがて底知れぬ所から上って来ます。そして彼は、ついには滅びます。地上に住む者たちで、世の初めからいのちの書に名を書きしるされていない者は、その獣が、昔はいたが、今はおらず、やがて現れるのを見て驚きます。

8 節「あなたの見た獣は、昔いたが、今はいません。しかし、やがて底知れぬ所から上って来ます。」

女を乗せた緋色の獣が「昔いたが、今はいない獣です」というのは、神学者によっていろいろな解釈がなされています。

① 黙示録 11 章に出て来る二人の証人がいた時にはいましたが、人々が二人の証人の復活により神をあがめるようになりました。そのため、獣である反キリストは戦いで倒れて

死にます。底知れぬ所から上って来るといのは、ハデスに一時下った反キリストが、生き返って戻って来るとい説です。

- ② 昔からいたバビロンの霊を持つ人間が、黙示録が書かれた時にはいないので、「今はいません」と言っているとい説です。
- ③ ローマ皇帝ネロを反キリストと考える神学者たちの説は、黙示録が書かれた時にはすでに死んでいたネロが生き返って反キリストとなり、活躍するので人々が驚くといものはです。

**8節「そして彼は、ついには滅びます。」**

彼の滅びることは、すでに定められています。

**8節「地上に住む者たちで、世の初めからいのちの書に名を書きしるされていない者は、その獣が、昔はいたが、今はおらず、やがて現れるのを見て驚きます。」**

真の神様に従わず、いのちの書に名が記されていない者は、反キリストが生き返ったので驚きます。



#### **黙示録 17章 9節-10節**

ここに知恵の心があります。七つの頭とは、この女がすわっている七つの山で、七人の王たちのことです。五人はすでに倒れたが、ひとは今おり、ほかのひとは、まだ来ていません。しかし彼が来れば、しばらくの間とどまるはずはです。

**9節「七つの頭とは、この女がすわっている七つの山で、七人の王たちのことです。」**

神学者の中には、ローマのバチカンに 7つの山があることから、カトリック教会と教皇を表していると考えています。

ただし、七つの山があるのはバチカンだけではありません。ヨルダン国の首都アンマンや、サンフランシスコなどにも七つの山があります。

**ダニエル書 2章 34節「一つの石が人手によらずに切り出され」**

キリストを表しています。

**35節「その像を打った石は大きな山となって全土に満ちました。」**

**44節「その国は他の民に渡されず、かえってこれらの国々をことごとく打ち砕いて、絶滅してしまいます。しかし、この国は永遠に立ち続けます。」**

キリストが、世の象徴である像を打ち砕きます。

全土に満ちる大きな山が、メシア王国を表していますから、山は支配国の象徴はです。

**黙示録 17章 9節「七つの頭……七つの山で、七人の王たち」**

黙示録 12章で、サタンの七つの頭と七つの冠について解説しました。

聖書の中に出てくる、イスラエルを圧迫し、支配した国々はです。

**10節「五人はすでに倒れたが、ひとは今おり、ほかのひとは、まだ来ていません。し**

かし彼が来れば、しばらくの間とどまるはずです。」

七つの頭を聖書から見ていくと、

- ・一つ目がエジプト。
- ・二つ目がアッシリヤ。
- ・三つ目がバビロン。
- ・四つ目がメディアとペルシャ。
- ・五つ目がギリシャです。

この五つが、黙示録の書かれた時代には、もうすでに倒れていて世界の支配国ではなくなっていました。

#### 10節「ひとりは今おり」

黙示録はローマ時代に書かれました。

- ・六つ目の支配国はローマ帝国です。

これらは全部、イスラエルの民と中東を支配した国です。

#### 10節「ほかのひとは、まだ来ていません」

- ・七つ目は、ローマ帝国の後に現れる支配国です。

#### 10節「彼が来れば、しばらくの間とどまるはずです。」

ローマ帝国の後に現れる国の、長期占有を表しています。

約束の地に最も長くとどまっているのがイスラム教です。

イスラム教が神殿の丘に岩のドームを建てました。

ソロモンの神殿が建てられてから、イエス様の時代の第二神殿を含めても、千年足らずです。

イスラム教の岩のドームとモスクは、1300年以上経っています。

#### 10節「しばらくの間とどまるはずです。」

このことばが当てはまります。



#### 黙示録 17章 11節

また、昔いたが今はいない獣について言えば、彼は八番目でもありますが、先の七人のうちのひとりです。そして彼はついには滅びます。

#### 11節「また、昔いたが今はいない獣について言えば、彼は八番目でもありますが、先の七人のうちのひとりです。」

死んで生き返る反キリストは8番目でもあるというのは、7つの支配国の中から、反キリストが現れるということです。

7つの支配国とは全く違った、世界を一つの国にし、自分を神の立場に置く者です。

七つの頭とは違った独裁者なので、8番目でもあるということです。

#### 11節「そして彼はついには滅びます。」

反キリストは、キリストのご再臨によって滅びることが定められています。

## ★ 黙示録 17 章 12 節－14 節

あなたが見た十本の角は、十人の王たちで、彼らは、まだ国を受けてはいませんが、獣とともに、一時だけ王の権威を受けます。この者どもは心を一つにしており、自分たちの力と権威とをその獣に与えます。この者どもは小羊と戦いますが、小羊は彼らに打ち勝ちます。なぜならば、小羊は主の主、王の王だからです。また彼とともにいる者たちは、召された者、選ばれた者、忠実な者だからです。

12 節「あなたが見た十本の角は、十人の王たちで、彼らは、まだ国を受けてはいませんが、獣とともに、一時だけ王の権威を受けます。」

10 人の王たちは、反キリストと共に一時だけ王の権威を受けますが、その後、反キリストの支配下に置かれます。

彼らは、まだ国を受けていませんから、未来のことを語っています。

13 節「この者どもは心を一つにしており、自分たちの力と権威とをその獣に与えます。」  
彼らは強制されてではなく、一致して反キリストを世界の支配者にします。

14 節「この者どもは小羊と戦いますが、小羊は彼らに打ち勝ちます。なぜならば、小羊は主の主、王の王だからです。」

ハルマゲドンの会議が開かれ、いよいよ戦いが始まるのはご再臨の時です。

真の神様を見ても戦う愚かな者たちです。主の主、王の王と戦えば敗北は避けられません。

14 節「また彼とともにいる者たちは、召された者、選ばれた者、忠実な者だからです。」  
ゼカリヤ書 14 章 5 節、「すべての聖徒たちも主とともに来る」と記されている預言の成就です。

## ★ 黙示録 17 章 15 節

御使いはまた私に言った。「あなたが見た水、すなわち淫婦がすわっている所は、もろもろの民族、群衆、国民、国語です。」

15 節「すなわち淫婦がすわっている所は、もろもろの民族、群衆、国民、国語」

淫婦の座っている所は、偶像礼拝をしているもろもろの民族、群衆、国民、国語の異邦人社会を指しています。